

職場紹介

太陽工業(株)における「環境」への取り組み

太陽工業(株) 橋 俊 廣

1. はじめに

太陽工業株式会社は昭和 22 年に設立後、テント膜にこだわり様々な分野で活用の可能性を迫り及して参りました。日よけ・雨よけの軒先テントからはじまり今では製品倉庫施設や大型スタジアム・ドームといった建築分野、粉粒体輸送容器等の物流資材や土木・海洋工事にまつわる土木資材の製造分野、これら長年の膜材技術を元に、新しい分野である「環境」にチャレンジしているところです。

2. 現在展開中の「環境製品」

■しゃ水シート工法

1980 年代より最終処分場の安全性向上を目的に取り組んでまいりましたしゃ水シート（ガンデル・シート）は、現在全国規模の実績に至りました。今日弊社がご提供いたします「しゃ水シート」には様々な経験を活かした技術の結集であり、遮水工全般にわたるレベルアップ展開をおこなっております。

商品群

しゃ水シート ガンデルシート（HDCW、HDTW）

漏水検知システム DDSセンサー

鉛直遮水工 ジオロック

クローズドシステム（雨水浸水・廃棄物飛散防止）エコドーム

■分別回収容器（エコバッグ）

1994 年容器包装リサイクル法の制定を機に、行政による一般廃棄物のゴミ減量・リサイクルの物流が本格化して参りました。そこで従来のゴミ箱とは全く違うコンセプトを持った容器＝エコバッグの開発と全国展開を行っております。約 3 年で全国の約 280 行政、約 6 万袋の御利用実績となりました。今後もゴミを減らし、リサイクル物流の増大を支援できる技術の提供を開発して参ります。

コンセプト：一般廃棄物の中の特定品目を集めるだけの単なる容器ではなく、（原料を生み出す）

再生資源の回収容器としての位置づけを明確にし、

（脱・使い捨て）ゴミ減量の為に回収容器自身のライフサイクルを伸ばすべく各地のメンテナンス・グループ（TDS ネットワーク）との連携によりエコバッグ運用管理をサポート致します。

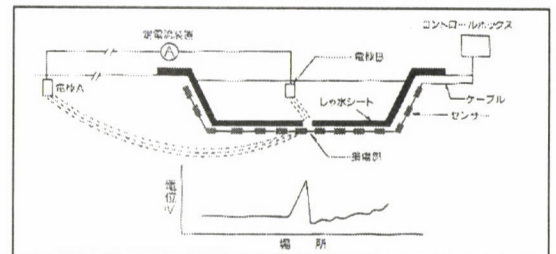
分別回収の意義付け：主材料に再生素材としてPET ボトル再生樹脂メッシュを使用。

（PET ボトルリサイクル推進協議会認定マーク付き）

構造上の特徴：自立する為の補助部品として、

（折れない）（割れない）

PP 発泡材を使用し、交換が簡易。

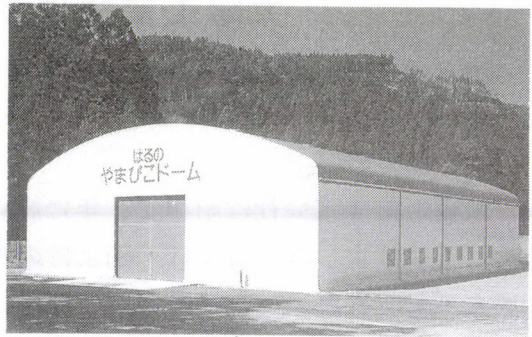


■ストックヤード/クローズドシステム (エコドーム)

従来の”テント倉庫”のノウハウを活かし、全く違うフィールド（環境対策分野）への対応を考慮し、機能を特化したテント倉庫＝エコドーム&エコヤードをご提供します。

納入実績（適応分野）

- ・リサイクル処理プラント、分別資源保管
- ・焼却灰保管ストックヤード、クローズドシステム
＜処分場上屋＞



■製造工場に於けるゼロ・エミッション動向に対応

従来産業廃棄物として処分される様々な品目が、再生製品原料として生まれ変わって行く静脈物流の中に、必要な様々な物流資材をご提供します。（フレキシブルコンテナバッグ、テント倉庫/他）

3. 現在取り組んでいる「新たな環境商品」

■焼却灰処理・処分の安全性向上

○コンテナバッグ「タイコン」

ばい塵、焼却灰の保管・運搬・処理・処分までの一環した物流のなかで、密閉性を高めたユニット化による運用管理を提唱して参りました。

特徴 気密性能向上（弊社比）/段積み保管可能/軽微な重機で運用可能

○（長期保管）倉庫「エコドーム」

有害物質を含む焼却灰を未来の合理的な処理技術に対処を望み、数年から数十年の間安全性の高い安定保管管理システムを提唱して参りました。

提案システム （ガンデルシート+エコドーム）・灰飛散防止、廃水处理プラント軽減
（タイコン+エコドーム）・灰飛散防止、土工事軽減、再搬出時の作業性向上

■ゴミ減量・リサイクル活動の支援

○エコステーション

目的：リサイクル活動は、徹底した資源の分別と再生製品の積極利用を併せて初めて、完成されるものであり、今日までの大量生産・大量消費になりつつ経済生活を市民の意識から変革させます。

コンセプト：その位置づけとして1地域にランドマークとなる高機能施設を提唱し、廃棄物のリサイクル拠点（分別資源の入口と再生製品の活用出口）としての役割を担います。

機能：広く市民に愛される（迷惑施設のイメージ脱却）施設。環境保全、環境対策の情報発信施設。

分別回収、再生製品販売の合理的な運用施設。

4. 今後の展開

現状では、前述の既存3製品を独立した市場とみなし、個々に展開して参りましたが、各々に特化した環境対策製品を関連・結合させる事により、環境問題解決の為に一括統合した処理技術システムをご提案して参りたいと思っております。

製造工場におけるゼロ・エミッション動向の増大にあわせ、リサイクル物流の流れを円滑に進展させるお手伝いにも取り組んで参りたいと考えます。

5. おわりに

環境管理の概念が今後の大きなKEY WORDとなり、循環型社会の創造に向けた各企業の努力が今後ますます活況の様相を呈してくる昨今、我々自身から環境にやさしい企業でありたいとの理念を保持して参りたいと考えます。

